

授業科目名	舞台芸術入門	担当教員	杉山至 深澤南土実 李知映 河村竜也 富田大介
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第1クォーター		
講義内容	舞台芸術作品をつくるに際して必要な事柄を、演出家や舞台監督の役割、舞台美術の仕事、大道具備品の構成と管理、照明・音響の操作、作品の取り扱いや管理、および劇場運営や広報、劇評等の意義に至るまで、一通り学び、舞台芸術全般について基礎的な知見と理解を得る。		
到達目標	舞台芸術作品を巡る事柄について、危険の回避等も含めて、基本的なことを説明できる。		
授業計画	<p>1回目 4/14 (金) 授業概要説明ガイダンス (担当 担当教員全員) と舞台スタッフワーク 1 (舞台美術、舞台大道具、劇場機構について) (担当 杉山 1)</p> <p>2回目 4/21 (金) 都市と劇場文化 (担当 李 1)</p> <p>3回目 4/28 (金) 戯曲を読み解く(担当 河村 1)</p> <p>4回目 5/12 (金) 舞台芸術業界において専門家とは何か (担当 李 2)</p> <p>5回目 5/19(金) 舞台スタッフワーク 2 (舞台音響の基本について) (担当 杉山と外部講師 (牛川))</p> <p>6回目 5/26 (金) セノグラフィーの発想と歴史の概要 (担当 杉山 2)</p> <p>7回目 7回目 6/2 (金) 仕事を発注する、発注を請ける(担当 河村 2)</p> <p>8回目 6/9 (金) 誰が劇評を書くのか (担当 李 3)</p> <p>9回目 6/16 (金) 舞台スタッフワーク 3 (舞台照明の基本について) (担当 杉山と外部講師 (吉本))</p> <p>10回目 6/23 (金) 舞台芸術における演出方法 1 (現代編 ex. 平田オリザ) (担当 富田 1)</p> <p>11回目 6/30 (金) 舞台芸術における演出方法 2 (現代/古典編 ex. 岡田利規, 世阿弥) (担当 富田 2)</p> <p>12回目 7/7 (金) 古典形式を活かした現代演劇の戯曲を読んでみる (担当 富田 3)</p>		
事前・事後学習	参考文献の一読など、授業内で指示。		

テキスト	授業中に配布
参考文献	平田オリザ『演劇入門』(講談社現代新書 1998年)、『演技と演出』(同 2004年) 岡田利規『遡行 変形していくための演劇論』(河出書房新社 2013年)、『未練の幽霊と怪物―「敦賀」「挫波」―』(白水社 2020年) 世阿弥(小西甚一翻訳)『風姿花伝・花鏡』(たちばな出版 2012年)
成績評価の基準	授業への取り組み(リフレクションシート、授業内課題を含む) 100%
履修上の注意 履修要件	1年次配当科目「パフォーミングアーツ概論」を受講していることが望ましい。
実践的教育	該当しない。
備考欄	履修希望オーバーの場合は抽選となる。